

3月24日は世界結核デー

結核を 正しく理解できていますか

ID 1004514

結核は、世界の総人口の23%に当たる約17億人が感染している重大な感染症で、年間160万人程が死亡していると推定されています。

結核について正しく理解し、予防を心掛けましょう。

問 保健予防課 ☎(626)1114

特集

結核は、日本でも、1日に約32人の新しい患者が発生し、約5人が命を落としている重大な感染症です。本市では、過去3年間、年平均約40人が新たに結核と診断され、70歳以上の高齢者が約半数を占めています。

新型コロナウイルス感染症により、健診の延期や健診を控える人が増え、結核患者の発見が遅れている可能性があります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染者には、状況に応じて副腎皮質ステロイド剤を投与しますが、免疫機能が低下するため、結核菌にすでに感染している人の発病リスクは、副腎皮質ステロイド剤非投与者に比べ、2.8～7.7倍となっています。

結核を早期発見するためには、結核について正しく理解することが大切です。

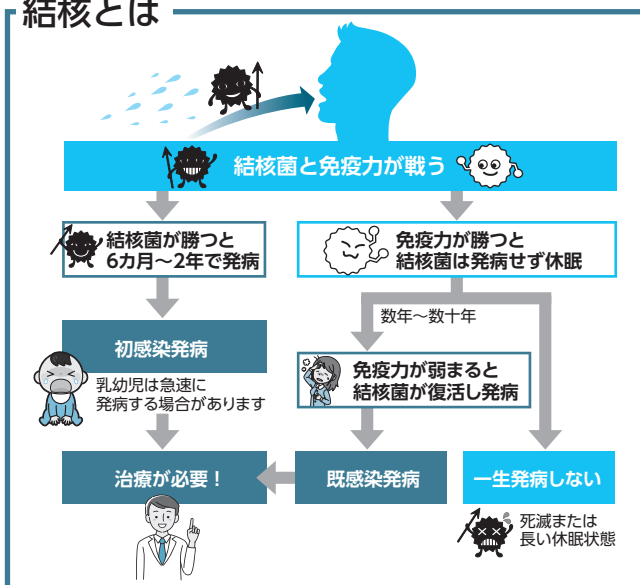
高齢者は要注意

高齢者はすでに結核に感染している人が多く、体力・抵抗力が低下したときに、発病するケースが増えています。結核を発病した人の約4割が、80歳以上の高齢者です。早期発見のために、症状が出なくても毎年、胸部レントゲン検査を受けましょう。

働き盛りは発見が遅れやすい

働き盛りの年代は、不規則な生活などで抵抗力が低下しがちです。30～59歳の結核患者の約4割は、症状が出てから受診までに2カ月以上掛かっています。仕事や家庭が忙しいことで受診が遅れることがあり、受診・診断の遅れから重症化することも少なくありません。

結核とは



出典「結核の常識2019」結核予防会

⚠こんな症状には注意

結核の初期症状は風邪の症状によく似ているため、見逃されてしまうことが多くあります。また、高齢者では、せきや痰などの症状が現れないこともあります。せきや痰、微熱が2週間以上も続く、体重が減る、食欲がない、寝汗をかくなどの症状が見られたら、早めに医療機関を受診しましょう。

結核と診断されたら

結核は、約6～9カ月間、毎日きちんと薬を飲めば治ります。医師の指示を守って、治療終了まで薬を飲み続けることが重要です。

結核予防のためのポイント

- ▼早期発見は、本人の重症化を防ぐだけでなく、大切な家族や職場などへの感染の拡大を防ぐためにも重要です。年に一度は、健康診断を受診しましょう。
- ▼結核菌を吸い込んでも、免疫力が高ければ発症しません。普段から健康的な生活を心掛け、免疫力を高めておくことが重要です（右のイラスト参照）。また、抵抗力の弱い乳児は、結核に感染すると重症になりやすく、予防するためには計画的なBCG接種が有効です。

